

平成29年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立筑前高等学校長 印

(その1)

学校番号

52

学校運営計画(4月)			評価(3月)		
学校運営方針	(1) 校訓「生きる希望 学ぶ喜び」を達成することを基軸とした生徒の育成。 (2) 知性を磨き、文武両道にわたって努力する生徒の育成。 (3) 豊かな情操と広い視野を持ち、国際色豊かな生徒の育成。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
昨年度は、1年でのビブリアバトルによる読書の推進や2年での地域研究及び発表会など生徒の興味関心を高めて主体的に活動する道を開くことができた。この経験を活かして今年度はさらに授業や行事・部活動などあらゆる活動を通して生徒の潜在能力を引き出し自己実現を図る。	1. 学力の向上	質の高い授業を展開するために、教科ごとの学力分析や指導方法の改善に努め、成果を生徒に還元する。また、教科を超えた研究授業や校内研修を充実させる。			
	2. 健全な心身の育成	「人権が尊重される学校作り」を全職員で目指す。また、部活動の活性化、規範意識の醸成、学校行事の充実を図ることで生徒の健全な心身を育てる。			
	3. 進路希望の実現	進路ガイダンスを充実させ、具体的目標の早期決定と目標実現に向けた指導を組織的・計画的に行う。			
	4. 生徒・保護者から信頼され、地域に貢献する学校作り	広報活動を充実させ、本校が行っている教育活動を広く中学生・保護者・地域に発信する。また継続的に行っている地域ボランティアや介護施設訪問などを進化させ地域に貢献する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	教務課 自己学習能力育成のための取り組み	成績評価変更に伴う効果を検討し、生徒への学習動機づけへつなげる。			
		丁寧な面談を実施し、適切な学習方法や教材のアドバイスをする。			
		定期的に学習時間調査を実施し、スマホ管理と家庭学習時間の確保をさせる。			
		ビブリアバトルを例に、読書に基づく論理的思考の深化を図る。			
	教務課 授業改善のための着実な取り組み	研修課と連携し、ICTやアクティブラーニングの実施率を上げる。			
		知識注入型の授業から、考えさせる授業、活動・参加型の授業へ転換を図る。			
		定期考査への論述(記述)問題の導入を検討・推進する。			
		生徒支援に立った習熟度別・少人数指導の充実と有効活用を図る。			
	企画広報課 広報活動の充実	広報紙の内容を充実させると共に発行回数を増やす。			
		進路相談事業・中学生体験入学・中学校訪問の説明内容を充実させる。			
		式典等の円滑な運営			
		教頭、主幹等との連携を密にして式典の企画・運営を行う。			
図書課 式典等の円滑な運営	P T A・同窓会との連絡を密にして、確実な運営を行う。				
	図書館機能の充実				
	適切・計画的な図書を選定、書籍展示の工夫、貸出数に関する調査・統計の有効活用を図る。				
	新着図書等の迅速な案内、図書館広報紙「WAVE」の定期的な発行を行う。				
図書課 読書活動、芸術・文化活動の振興	本に関する新イベントの企画・運営、全国書評合戦大会へ向けた活動を展開する。				
	校外施設を活用した芸術(古典芸能)鑑賞を通じての情操育成を行う。				
	生徒指導部 生徒課 社会性、道徳性を身につけた生徒の育成	部活動入部率80%を目標とし、活性化・充実を図る。			
		教職員間の情報共有と生徒観察による、いじめの未然防止を図る。			
「いじめ防止対策委員会」を中心とした組織的な初期対応をし、速やかに対応する。					
登下校指導の継続的な実施、生徒の交通安全に関する意識を集会を利用し高める。					
生徒指導部 生徒課 自己管理能力、緊急時の対応能力の育成	生徒会執行部を中心とした各行事への生徒の積極的参加を指導する。				
	定期的な校内巡回指導による防犯意識の向上を図る。				
	情報教育課と連携し、ネットパトロールの組織化と定期化を構築する。				
	規範意識育成学習を通じた事故や犯罪に巻き込まれない対応能力の育成を育む。				
生徒指導部 保健課 健康教育の推進	健康状態を把握させ、自主的に健康管理を行うことができる資質や能力(自己管理能力)を育成する。				
	健康相談において、不安や悩みを抱える生徒に積極的な活用を勧め、問題解決に向けての支援を行う。				
	生徒支援体制の充実				
	緊急時における救急処置、校内連絡、移送、保護者や関係者への連絡等の初期対応を迅速かつ確実に行う。				
生徒指導部 環境課 校内の美化及び環境の整備	特別な支援が必要な生徒について、各学年を通じて実態把握をし、具体的な支援方法を検討する。				
	磨かれた美しい校内・教室美化に努め、生徒の美化意識の向上を図る。				
	美化委員会を活発化させ、生徒自ら美化活動に励むような体制を強化する。				
	季節に応じて清掃区域を変え、柔軟なボランティア活動にする。				
生徒指導部 環境課 地域ボランティアの充実	地域の方々と密接な連絡を取り地域に貢献する。				

(その2)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
進路指導部	進路課	主体的に自己実現を目指す生徒の育成	高い志と目標を掲げた進路選択に向けて、低学年次からの計画的な指導を行う。		
			オープンキャンパスを含め大学説明会への参加を促進し、進路意識の向上を図る。		
			総合的な学習の時間などを活用し、読解力・思考力を継続的に涵養する。		
			模擬試験・実力考査を活用し、計画的な学習に取り組みさせる。		
	自主的な学習態度の育成と学力の向上	課外授業の遅刻・欠席の指導を徹底する。			
		学年や他課と連携し、学習と部活動の両立を実現させる。			
		将来の進路選択に向けた進路講演会を計画的に実施する。			
		入試改革に向けて教員間の情報を共有し、研修会等への参加を促す。			
	情報教育課	ICT機器を利用した効果的教育活動の推進	電子黒板を積極的に活用し、ICT機器の有効活用を考える。		
			相互授業参観時に、ICT機器を使用した授業実施を奨励する。		
ネットワークを利用した校務の効率化		校務文書のPDF化を推進し、ペーパーレス化を促進する。			
		各分掌のデータ入力を効率的に入力できるようにする。			
研修部	「主体的・対話的で深い学び」に向けたAL型授業の取組み	AL的手法を用い、ICTを活用した授業を工夫する。			
		研究授業で得られた成果を教科内で共有し指導に生かす。			
		相互授業参観を各学期に実施し、指導力の向上を図る。			
	校内職員研修の充実と県教育センター・他校実施の研修会への参加奨励	AL型授業に関する職員研修を実施し指導力の向上を図る。			
		生徒指導課や保健課等と連携し、効果的な職員研修を企画・実施する。			
		研修実施団体からの案内等の情報を速やかに伝達し、参加を奨励する。			
学年	1学年	学校生活の基本となる望ましい生活習慣の確立	挨拶の励行と、言葉遣い等礼儀正しい態度を育成する。		
			掃除の意義・効用を踏まえた、校内の環境美化を徹底させる。		
			部活動への積極的加入の奨励と、加入した生徒に対する支援を行う。		
			ルールやモラルの遵守指導による規範意識の高揚と、問題行動を防止する。		
	計画的、継続的な学習活動の確立と進路選択についての適切な情報提供	学習指導を学校生活の中心に据えて全ての生徒を指導する。			
		家庭学習・予習・復習の習慣を早期に確立させる。			
		県内に限らず、全国を視野に入れた多角的な進路指導を行う。			
		校外模試結果の適切な分析と、データに基づく効果的な指導を行う。			
		2学年	挑戦する心の育成	全国的な視野に立った進路目標設定し、高い志を持った進路意識を喚起する。	
				英語の資格試験を積極的に受験させる。	
外部模試等を活用し成績上位者数を増やす。					
充実した授業の実践及び学ぶ意欲を喚起する。					
能動的・協働的な態度の育成	グループ活動やプレゼンテーションを重視した言語活動を充実する。				
	様々な行事を通して学年のリーダーを育成する。				
	全教科・全領域における人権教育的視点に立った指導の徹底を行う。				
	集団行動における時間の厳守と場の状況を踏まえた節度ある態度を育成する。				
3学年	筑前生の最上級生としての「自覚」と「誇り」を身につけさせる。	三年生として、一・二年生を望ましい学校生活へと牽引する力を持たせる。			
		学習と部活動の両立(文武両道)・学校行事への積極的参加を奨励する。			
		自分も他人も大切にできる強くて優しい生徒を育成する。			
		全教科・全領域における人権教育的視点に立った指導の徹底を行う。			
	自己実現を可能にする強い意志とチャレンジ精神(打って出る)を持った生徒を育成する。	発表、ディスカッション、プレゼン等を重視した言語活動の充実を図る。			
		成績上位層を増やす・伸ばすための個別添削指導を実施する。			
		全国、世界的な視野に立った進路目標設定し、高い志を持った進路意識を喚起する。			
		充実した授業の実践及び学ぶ意欲を喚起する(授業で勝負)。			